

「いま」202203

「いまはむかし」の「いま」
「むかしはいま」の「いま」

「いま」、世界中の人々がテレビやSNSで戦争を見ている。本物の戦争の生中継。ロシアとウクライナの戦争を、まるでサッカーの試合を観るように眺めている。

「いまのいま」起きていることを、自分事として、どう受け止めたらいいいのか…。他人事ではないんだ。

「戦争を止めてほしい」
けれども、何も出来ずに右往左往している。自分に出来ることは、淡々と自分がやってきたことを続けること。映画を創り、観せ、続けることだ、と思いつく。

東京・田端にある小さな映画館「シネマ・チュプキ・タバタ」で、今月は毎週水曜日に、新作『いまはむかし』を含めて、四本の私の作品の特集上映をやってきた。

『奈緒ちゃん』『やさしくなめに』『ルーペ』『いまはむかし』を、朝からまる一日上映、私も毎回トークをやる。

名作(?)揃いの特集上映に、迷監督トークで、毎回満員御礼...と言いたいところだけど、苦戦しているのだ。どうして、お客さんが来ないんだろう...切ない。

自分が切ないだけでなく、映画館に申し訳ない。まわりの、心優しい友人たちは、「コロナ禍」での上映だから仕方がない、健闘している方だと思うよ。」と言ってくれるけど...悔しいなあ。

それにしても、今回の四本立ては「いま」観るべき映画だと思う。

新作『いまはむかし』は、80年前のあの戦争の時代に、父・伊勢長之助がかかわっていた国策映画を紹介することで、日本とアジアの歴史を問い直すドキュメント。

『ルーペ』は、『奈緒ちゃん』のカメラマン・瀬川順一さんが、スタッフの一員だった日中戦争の記録映画『戦ふ兵隊』での出来事、「ルーペ論争」のことを語り明かしたインタビュードキュメント。

『奈緒ちゃん』『やさしくなめに』は、障がいのある私の姪っ子、奈緒ちゃんとその家族を、35年間あまりにわたって撮り続けた、ホームムービーのようなパーソナルドキュメンタリーだ。

素直に言って、どの作品も「戦争を止めてほしい」という映画だと思う。

私はこの四作品の上映を「反戦」ではなく「厭戦」、「厭戦四部作」と呼んでみたい。「戦争を止めてほしい」という気持ちを、普通の人々の普通の日々をベースに語りかける映画として、観てもらいたいのだ。

日常を気負うことなく見つめ、語りかける。そのことにこそ、ドキュメンタリーの存在意義があると私は思う。迷いにまよいながら、オドオドと語りかける表現にこそ、力がある、と思いたい。

他人事ではなく、自分事として、「いま」を見つめなければ、「ホントのこと」は見えてこないはずだから...

「いま」のことがワカラナイからこそ、「むかし」のことを、しっかり受け止めてみよう。そして、「いま」のことをしっかり受け止めることなしに、明日の「いま」は始まらないのだから。

耳を澄ませて、見つめ、考え続けよう。あきらめずに。

「戦争を止めてほしい」という思いを、深めたい。

「いま」、私は映画を創り、観せ、続ける。

伊勢 真一